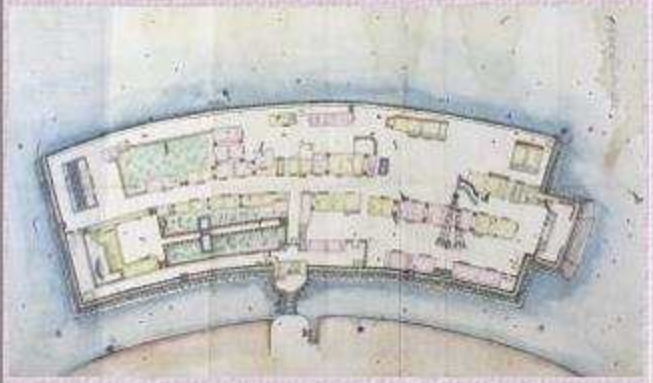
出島の図
（小林茂家3861）



【資料解説】
出島は、1636(寛永13)年、ポルトガル人によるキリスト教の布教を禁止するために、長崎の岬の突端に人工的に築かれた島です。1641(寛永18)年に平戸からオランダ商館が出島に移されて以降、1854(安政元)年の開国に至るまで、出島は、鎖国期における西欧に開かれた唯一の窓口となりました。図の中には、商館長の住宅のほか、家畜舎・花畑などの文字が見られます。

長崎紀聞
（小室家2928）

【資料解説】
長崎紀聞は、長崎に関する挿図を中心とした地誌です。出島の様子、オランダ人や中国人の風俗を絵入りで紹介しています。著者は田沢春房で、1807(文化4)年または1808年に成立したものです。本館収蔵の文書は、原本を写したものと思われます。
左の図は見出しに「阿蘭陀船帆ヲ揚タル図」とあります。

高札
（小島栄家1262）

【資料解説】
高札は、禁令などを板に書き、村の中心に掲示したもので、法令を徹底するために用いられました。これは1711(正徳元)年の切支丹訴人の制札です。江戸幕府はキリスト教の宣教師や信徒を検挙するため、密告者に賞金を与える政策をとりました。ばてれん(宣教師)、いるまん(助修道士)の訴人の懸賞金のほか、五人組の連座についても書かれ、幕府による住民相互の監視体制が整えられてきたことがわかります。